

5/30 ミアーズ中学校から生徒が訪問  
千歳で書道体験



姉妹都市アンカレジ市から来たミアーズ中学校の訪問団が、市内中学校での学校体験やホームステイを通して交流を深めました。この日は、ミアーズ中学校の生徒 24 人が千歳中学校を訪問し、書道を体験。筆の持ち方や姿勢、書き順などを先生から教わったのち、思い思いの字を書きました。ミアーズ中学校でも書道の授業を受け、「愛」や「平和」は簡単に書けたという 8 年生（中学 2 年生相当）のアイラフォ・ファウタヌさんは、千歳滞在について「新しいことだらけで何でも楽しい」と話し、クリスタ・スベンセン副校長は、千歳市の印象について「人々がフレンドリーで歓迎してくれて嬉しい。まちの自然がとても美しい」と話しました。



5/23 東小学校の恒例行事  
全校児童が田植え体験



東小学校での毎年の恒例行事、児童による田植え体験が幌加で開催されました。田植えは毎年、高学年と低学年の児童がペアを組んで田んぼに入り、上級生が見本を見せながら一緒に苗を植えていきます。参加した 6 年生の近藤 大翔さんは、ペアを組んだ子に「苗を力強く差すように」とコツを伝授。田植えを終えた後、「6 年生で最後だし、最高の田植えにしたかった。これからも毎年おいしいお米を作って、東小のみんなが笑顔になれるようなイベントであってほしい」と晴れ晴れとした表情で話しました。



5/9 5/15 市内農家が栽培したスズラン  
皇室献上、太宰府天満宮へ奉納



皇室に献上

市は毎年、市内で栽培したスズランを皇室に献上し、また太宰府天満宮へ奉納しています。皇室献上は、昭和 36 年 5 月に昭和天皇・香淳皇后両陛下をお迎えし支笏湖で挙行された「植樹祭」を記念して毎年 5 月に行っており、今回で 63 回目を迎えました。太宰府天満宮奉納は今回で 67 回目を迎え、毎年 1 月に太宰府天満宮から「梅の花」を、5 月には千歳市から「すずらんの花」を相互にお届けしています。5 月 9 日には皇室行きのスズランを ANA（全日本空輸）に、5 月 15 日には大宰府行きのスズランを JAL（日本航空）に託すため、それぞれ贈呈式を行いました。



太宰府天満宮へ奉納

5/23 子どもたちも頑張った  
千歳ウエルカム花ロード



子どもたちの《おもてなしの心》を育むことを目的にはじまった《ウエルカム花ロード》は、今年で 21 回目。千歳小や緑小の児童、航空自衛隊、市民ボランティアなど約 500 人が千歳インターチェンジ沿道や南千歳駅周辺、新千歳空港周辺などの道路に色鮮やかなマリーゴールドやサルビア、ジニアなどの花を植えました。千歳インターチェンジ沿道でピンク色のペコニアの花を植えた千歳小 3 年生 39 人の児童たちからは「僕は 10 株植えたよ」「私は 15 株植えたよ。もう終わっちゃった。楽しいから、まだ植えたいよ」という声が聞こえ、子どもたちを見守る先生たちの表情がほころんでいました。

5/19 5/20 5/21 花と笑顔でいっぱい  
花と緑のフェスタ



花と緑に親しめる場として、ちとせ環境と緑の財団が主催する《花と緑のフェスタ》が 5 月 19 日から 21 日までの 3 日間、グリーンパルトで開催されました。開催期間中には 7,474 人の来場者があり、メモリアルツリーの贈呈式やキッズダンスチームによるチアダンス、千歳 JAZZ 倶楽部の演奏などを楽しみました。メモリアルツリーの贈呈式では、五島洋子理事長から「メモリアルツリーを育てながら、ご家庭の幸せがいつまでも続くことを願っています」とメッセージが送られました。また、会場では、花苗や野菜苗をかかえた方の笑顔で溢れ、「買いすぎてしまったかな。これから植えるのが楽しみ」という声が聞こえてきました。

**人のうごき**

《総人口》  
97,767 人 (+78)  
男性 49,625 人 (+16)  
女性 48,142 人 (+62)  
《世帯》51,941 世帯 (+53)

( ) 内は、前月との比較です。

6-1 現在

Vol. 02 千歳村の熱心な頼み

Chitose Airport 100th anniversary

大正 15 年 8 月、北海道鉄道の札幌線（苗穂 - 沼ノ端）が開通し、千歳村に駅が建設されました。間もなくして小樽新聞社の社員が村役場を訪れ、「近日中に当社主催の観楓会を千歳村で開催します。孵化場を見学したのち神社山で昼食会を開くので、湯茶の接待をしてもらえませんか」と申し出ました。

時の村長、川合新三郎はこれを快諾し、「特産品のヤマブドウ、馬鈴薯、三平汁

を ごちそうしましょう」と約束しました。

感激した小樽新聞社の社員は、「当社には購入したばかりの飛行機がある。この飛行機を千歳村の上空で飛ばし、歓待のお礼として当日、空から宣伝ビラを撒きましょう」との提案をしました。

飛行機はまだ興行の対象だった時代のこと。「せっかく千歳に飛行機が来るなら、そう考えた千歳村は「着陸して間近で見せてください」と熱心に頼みました。しかし飛行機を着陸させようにも、千歳村には着陸場がなく、これは途方もない申し出でした。それでも諦めきれない千歳村があまりに熱心に頼み続けるので、小樽新聞社の社員もこれを無理難題と一蹴することなく、村役場の意向を自社の操縦士に伝えると約束して帰っていきました。

川合新三郎

手づくりの着陸場から新千歳空港へ開港 100 年の歴史を振り返る

ちとせ空港  
**百年物語**

広報ちとせからのお知らせ

広報ちとせの発行日は毎月 10 日です。この日までに届かないときは、次の番号にご連絡ください。なお、町内会に加入しているしていないを問いません。

広報広聴課 広報係  
☎(24)0104 FAX(22)8851